

平成 30 年度第 1 回飯田市総合教育会議 会議記録

日時：平成 30 年 9 月 25 日（火）

午後 1 時 00 分から午後 3 時 00 分

場所：飯田市役所 C211・212 号会議室

1. 開 会

(今村総合政策部長)

みなさん、こんにちは。お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。ただいまから平成 30 年度第 1 回総合教育会議を始めさせていただきます。私は、本日の司会を務めさせていただきます、飯田市総合政策部の今村と申します。よろしく願いいたします。最初に、牧野市長からあいさつをお願いいたします。

2. あいさつ

(牧野市長)

みなさん、こんにちは。本日は、大変ご多用の中、また、足下が悪い中、平成 30 年度第 1 回総合教育会議を開催いたしましたところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。

また、教育長はじめ教育委員の皆様方におかれましては、日ごろから飯田市の教育の振興のため大変なご尽力をいただいておりますことに、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、ご案内のとおり、この総合教育会議でございますが、平成 27 年 4 月 1 日に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正されたことに伴いまして設置されているものでございます。これまで、飯田市教育大綱の協議や飯田市の教育に関する取組、課題等につきまして、この会議で意見交換をさせてきていただきました。

飯田市教育大綱におきましては、理念を「結」と定めまして、昨年度からスタートいたしました「いだ未来デザイン 2028」と「第 2 次飯田市教育振興基本計画」とを有機的に結びつけて、市長部局と教育委員会が連携し協力しながらビジョンの実現に向けた取り組みを進めていくということで取り組んでいただいております。

今年度に入りまして、半年が経過しようとしているわけでありますので、まずはその振り返りから少しお話をさせていただければと思います。

皆様方にも大変ご協力いただきました世界人形劇フェスティバル、AVIAMA総会につきましては、本当に多くの市民の皆さん方にも関わっていただきましたし、子供たちにもボランティアスタッフとして活躍をいただきました。人形劇を通じて、世界を身近に感じていただく良い機会になったと思うところであります。後ほど、この件につきましては、意見交換の中で詳しく扱うことができればと思っております。

また、昨年度、小規模特認校に指定されました上村小学校につきましては、先日行われました上村大運動会に参加させていただきましたが、この上村小学校には地区外からの児童も入学して、中には家族みんなで上村に移り住んだ方もいらっしゃると思っております。順調にスタートが切れたと思っております。

それから、整備関係で申し上げますと、トイレの洋式化の要望は大変多くいただいているわけであ

りますが、緊急暫定措置といたしまして、この夏季休業中から順次全学校に簡易型の洋便器を設置してきているところでございます。

一方で、ご案内のとおり全国的に課題になっておりますが、学校への空調設備の整備、それから、通学路のブロック塀の撤去改修、こういったことに対しても早急に対応していかなければいけないと思っております。

課題は山積といった状況かとは思いますが、本日は、教育委員の皆様方からさまざまな率直なご意見をお聞かせいただき、そうしたことも踏まえながら、今後に向けた教育のあり方について前向きな意見交換ができればと思っております。

どうかよろしくお願ひ申し上げ、私からのあいさつとさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。続きまして、代田教育長からお願ひいたします。

(代田教育長)

みなさん、改めましてこんにちは。本日は、飯田市総合教育会議、第1回の会議にお集まりいただきまして本当にありがとうございます。

この総合教育会議は、市長やほかの教育行政の皆さんがいる前で、さまざまな意見交換ができる貴重な場だと思います。ぜひ忌憚のない意見交換をしながら、教育委員会だけではできない、また、市長部局と一緒にやることによってできる、そんなことを見出していければと思います。

本日はよろしくお願ひいたします。

3. 意見交換

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。それでは、早速意見交換に入らせていただきます。本日のテーマはお手元の資料でございますとおり3つのテーマについて意見交換をしていただきます。全体の終了を午後3時と予定しております。限られた時間ではございますが、有意義な意見交換をしていただければと思います。

(1) 人形劇のまちづくり今後の50周年を見据えて

(今村総合政策部長)

それでは、1つ目のテーマの「人形劇のまちづくり今後の50周年を見据えて」に入ります。最初に、牧野市長のほうから今年の取り組みを踏まえて今後の方向性等についてお話しいただき、その後、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

(牧野市長)

では、まず私の方で話をさせていただきます。

人形劇の取り組みにつきましては、先ほどのあいさつの中でも申し上げたところでありますが、今年の人形劇フェスタの概要につきまして、もう一度振り返ってみたいと思っております。

今年は、人形劇フェスタとしてスタートして20周年、そして人形劇のまちということで取り組み

を始めて 40 周年という節目の年だったわけでありますが、こうした節目の年を記念して、世界人形劇フェスティバルが開催されたわけであります。

この世界人形劇フェスティバル自体につきましては、18 の国と地域から 28 劇団にご参加をいただきまして、開催にあたっては 2,000 人を超える市民ボランティアの皆さんにもご協力をいただいたところであります。この市民ボランティアの中には、小中学生、子供たちも多く含まれているかと思えます。改めて、ご協力いただきました実行委員会の皆さんやボランティアの皆さんに敬意と感謝を申し上げたいと思えます。

今年の世界フェスの特徴の一つは、各中学校区の会場で海外劇団の公演を行ったということではないかと思っています。海外劇団に対しまして、子供たちがより身近に感じられるような取り組みになったのではないかと思うところであり、中には、「地元の小中学生と海外劇団の劇人との間での交流が活発に図られたところもある」とお聞きをしているところであります。これが世界フェス関係の私自身の振り返りと捉えていただければと思います。

また、今年シャルルヴィル・メジエール市との友好都市提携 30 周年という節目の年にもあたっており、それを記念して、シャルルヴィル・メジエール市からボリス・ラヴィニョン市長ご夫妻が当地にやって来られまして、さまざまな記念行事を行うことができたわけであります。

シャルルヴィル・メジエール市の住宅街には飯田通りを作っていただいております、その答礼をどうするかという課題がありましたが、龍江地区の皆さんから、龍江地区にある天龍峡桜街道を「シャルルヴィル・メジエール通り」と命名することでどうかという提案を、地域をあげてしていただくことができました。それを受ける形で検討させていただき、天龍峡桜街道を「シャルルヴィル・メジエール通り」とする命名式を開催することができたと思っております。

それから、旧人形とけい塔が飯田市公民館東側の道路の中央分離帯にあったわけですが、そこから中央公園の方に少し移動する形で新しい人形とけい塔、新ハミングパルを市民の皆さん方の尊い浄財をいただく中で整備することができたところであります。

その旧人形とけい塔ハミングパルがあったところには、記念植樹をしようということで、シャルルヴィル・メジエール市の木でありますニレと、飯田市の花でありますミツバツツジの植樹を先方のご夫妻と、地元のまちづくり委員会の皆様方はじめ、関係する皆様方にもご参加いただいて行うことができたというものでございます。

これらの行事を行った 8 月 9 日の夜には、30 周年の記念式典を開催いたしまして、シャルルヴィル・メジエール市と飯田市の両市の歴史を振り返るとともに、関係者の交流が図られました。先方のラヴィニョン市長からは、これからどのような形で交流を深めていくか考える中で、「人形劇に限らず、幅広いジャンルにおいて交流を図っていったらどうか、特に中学生や高校生が相互に学び合えるような短期留学制度みたいな形で人材交流に向けた取り組みも検討していったらどうか」という提案をいただいたところでございます。私も子供たちがお互いの市を訪問し、お互いの市のことを学ぶということは非常に良いことではないかと思っております、ぜひ今後具体化させていきたいと思っております。

それから、もう一つ大きな話として、AVIAMA の総会がアジアで初めて飯田市で開催されました。

8 月 11 日に開かれましたこの総会ですが、もともと AVIAMA の活動というのは人形劇の盛んなヨーロッパで主に行われてきた状況でありました。これをさらに世界的にネットワークを拡大させていこうという中で、まずアジア、飯田市で開催しようということでお認めをいただいたところであ

ります。そのような背景がある中で、オブザーバーでいいので東アジアの都市にもぜひ飯田でのAV I AMA総会にご参加をいただきたいということで、韓国や台湾、あるいは日本国内におきまして呼びかけをさせていただきました。その結果、オブザーバーで実際に参加していただいた都市もいくつかあり、さらに、南あわじ市、台湾の雲林縣、韓国の春川市、そしてスペインのセビリア市、この4都市が新たにAV I AMAへ加入したというものであります。

アジアの3都市につきましては、飯田市がお誘いをさせていただいた中で、それに応える形で加入を申請されたということで、飯田市としても役割を果たせたのではないかと考えております。AV I AMAの飯田での総会を一つの契機にいたしまして、さらに人形劇のまちづくりを進める都市の連携を世界的に図っていくことができるという確認がなされたところでもあります。また、私ごとですけれども、AV I AMAの理事会におきまして副会長に選任されるということも決まったところでもあります。

こうした人形劇に関する取り組みがかなり沢山あった夏でしたが、これらの取り組みを通じまして、市民の皆さん方が世界を身近に感じていただく機会になったのではないかと見ております。これはまさに小さな世界都市に向けての大きな一歩を踏み出すことができたと私自身は振り返って思うところであります。

飯田市のこうした人形劇の取り組みというものは、人形浄瑠璃が300年以上前からこの地に根付き、それが、今田、黒田の人形浄瑠璃として特色ある伝統芸能になっているわけでもあります。そういったものを基礎としながら現代の人形劇を取り入れて人形劇カーニバルを開催し、そして、市民主体の人形劇フェスタへと進化し、40年の節目の年を迎えることができたと思っております。まさに飯田の特徴を示す大変重要な取り組みではないかと、他に誇れる文化、財産と言ってもいいのではないかとそんなふうに思っております。

まずはこういった市民共通の財産として人形劇をとらえていくことで、これからも教育委員会の皆さん方にもぜひ考えていただき、人形劇のまちづくりを進めていけるようよろしくご協力いただければということをお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。それでは、これから委員の皆様からご発言をお願いしたいと思います。発言のある方は挙手をお願いいたします。私のほうで指名いたしますのでお願いします。

それではいかがでしょうか。三浦委員。

(三浦教育委員)

私のほうからは感想と、それを踏まえまして、教育や交流という部分で思ったところを述べさせていただきます。

人形劇フェスタは今年、10日間ということで行われましたけれども、私の職場である短大の学生と、家族や妹たちと一緒にこの10日間を本当に楽しく参加させていただきました。参加させていただいた感想としましては、本当に飯田市民であることを誇りに思えた、こういったものが飯田市にあることに本当に感謝したというところです。

何を感謝したかといいますと、この40年、カーニバルが始まってからの40年といった歴史があるわけですが、振り返ってみますと私のこの40年の中にも、自分がその歴史の中にちょこちょこいるということにも気づきまして、最初のワッペンができたのは小学校高学年のときだったという

ことがあったり、人形劇カーニバルからフェスタになったときに、「え、終わっちゃうの」、「え、やっぱやるんだね」というような市民としてのそういった感覚があったりしました。また、人形劇で演じる側として参加させてもらったこともありましたが、今回はAVIAMAの総会にも参加させていただくと、自分がところどころでその記憶がある、人形劇というものに関して、ここまで大きくなっていったところを感じたところです。

人形劇は、市民主体といった形ではありますけれども、こういったAVIAMAの総会、世界のフェスタを通して、世界の中に飯田市があるというようなところまで感じることができるようになったのは、人形劇を始めてくださった方、体制を整えてくださった首長さんの考え方というのがあったということを考えているところがありまして、改めて本当に感謝したいという気持ちです。

また歴史に関しては、記念シンポジウムに参加させていただきまして、この人形劇の歴史についても一通りお話を聞く機会がありました。これまでの歴史があり今があるというところがわかりましたし、飯田市民が知っておく必要がある一つの経緯、歴史ではないかと思いました。人形劇のスタートからこれまでさまざまな問題を抱えながらも継続され、今、飯田市が世界の人形劇の一翼を担っているところを子供たちも大人も知ることで、飯田市への愛着がさらに深まるのではないかと感じたところです。

700円のワッペンですけれども、これはただの人形劇の入場料という意味合いではなく、人形劇フェスタ、飯田市が誇れる自分たちが作っている人形劇の参加証明書という意味合いが生まれてくるのではないかと思ったところです。

つづけて、教育や交流ということに対して思ったところを述べさせていただきます。

人形劇フェスタ期間中に小中学生の上演をいくつか見に行ってきました。そのような中で、小中学生が上演するだけでなく、世界各国の劇人の皆さんと交流する場面を見ることができまして、温かい気持ちになりました。

今回は、全国高等学校総合文化祭が長野県で開催され、総文祭の人形劇部門が併せて行われるということで、そちらも見させていただきました。高校生は、飯田女子高校や福島県の高校が上演しておりました。しかし、高校生だけでは足りず、中学生に参加を依頼するような形で行っていました。これもまた、高等教育機関で人形劇に取り組む場面を飯田市で見られたことはとても意味あることだったと思います。

AVIAMA総会の中で、国際人形劇学院の学生の考案というようにお話が予算にあったかと思えます。「水族館プロジェクト」ということで、プロジェクトマップを使って投影するといったような形の事業の提案があったかと思えますけれども、若い世代の人たちの発想は素晴らしいと思うとともに、この飯田市の子供たちの発想が世界に認められるようなものができてきたら、これまた素晴らしいことだとちょっとわくわくしてAVIAMAの総会も見させていただきました。

私の教育や交流で思うところとしましては、人形劇を中心に国際交流が図れるということで本当に良い機会だと思いますし、先ほども市長のお話の中にありましたが、人形劇だけではなく、幅広いジャンルの交流が実現することを期待するところです。飯田からフランスに行って文化を吸収する一方で、フランスの皆さんたちにも飯田市に来ていただいて、人形浄瑠璃や水引といった文化を学んでいただければと思います。

飯田女子短大には、陶芸や機織りの機、藍染め、天然染料での染めといった設備も整っています。ぜひほかの国の若い人たちにも足を運んでいただいて、飯田市の文化を肌で感じてもらいたいと思います。

長くなりましたが、教育や交流で思う部分を話させていただきました。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。他の委員の方、いかがでしょうか。代田教育長。

(代田教育長)

私のほうからも感じたことを2点お話しさせていただきたいと思います。

まず、総括としては、本当に多くの市民が参加するすばらしい機会になったと思い、この場を借りて多くの関係者の皆さんに御礼申し上げたいと思います。

その中で、今回の40周年を経験した上で、まず一つは、小さな世界都市、世界とつながるという価値をどう高めていったらいいかということ強く感じました。

今、小学校や中学校で英語教育がどんどん進んで、グローバル化人材を育成するというように学校の教育過程としては進んでいます、やはりリアルな人たちと自分たちの言葉でコミュニケーションするというのは、英語教育においてもスイッチが入る非常に良い経験だと思いますし、飯田ではそういった機会が少ないという現実がある中で、少なくとも年に一度海外の人たちが来て、自分たちが交流できるということは非常に素晴らしい機会だと思います。

まずは意識的に交流の接点を持つことが大切だと思います。自分のまちに来た人にプレゼンテーションすること、今回のりんご並木を紹介した飯田東中学校の活動はすごく良かったと思いますし、飯田西中学校区では台湾の交流が行われておりましたが、これも単なる交流で終わらせるのではなく、文化や自分たちの活動を発表する場に位置付けることで、小学生や中学生が生きた英語を学ぶ機会になるのではと思います。このように、世界とつながるということを意識した活動を深めていきたいと思ったことが一つです。

もう1点は、人形劇の教育的な価値をさらに深めたいということをおもいました。本当に恥ずかしい限りですが、私もこれほどまで中学生、また小学生の人形劇を見ることがなかったのですが、今回、8回見させていただいて、率直に素晴らしいと感じました。子供たちが自らシナリオを考えて、チームワーク良くそれぞれの人形を作って、表現して、時には観客の反応を見ながら演劇を変えていくということもあって、本当に子供たちの成長や笑顔が見られる素晴らしい機会だなと思いました。

今までの歴史を見ると、どこかのタイミングで学校教育に入っていたと思うのですが、今後50年に向けては、その教育的な価値というものをしっかりと意識していくことも必要だろうと思いました。というのも、どうしても先生方は3年～5年で入れ替わり、また飯田下伊那出身の先生ばかりではないという現実を考えたときに、「人形劇になぜ取り組んでいるのか」、「どのような効果があるのか」ということを認識していくことが大事だということをおもいました。

その点で、今回、AVIAMAに加入された南あわじ市や、今回オブザーバーで来ていただいた瀬戸内市や美濃市とも交流することによって、教育的な価値をどう高めていくのかと考える機会にもなるのではと思いました。さらに、南あわじ市との関連で言うと、今度会うのが何年後とかにならないように、どこかで継続して接点を持てないかと思っています。

個人的な感想ですが、毎年、黒田人形浄瑠璃伝承館のほうで、人形浄瑠璃の4座である黒田・今田・古田・早稲田の継承に努めている高陵、竜峽、箕輪、阿南第一中学校の子供たちが集まって、それぞれの演技をして指導を受けています。今年は、70人くらいの中学生在が来て活動をしており、非常に良い場だと思いました。この活動を17年前に始められた先人の皆さんと続けられてきた皆さんには敬

意を表するところです。この活動に毎年、淡路から来ていただき指導していただいています。このような場に、例えば淡路から中学生と一緒に来ていただければ交流が広まると思いますし、この伊那谷だけではなく、全国の子供たちに広がれば相互に触発されるような機会になっていく可能性もあるのではと思ったところです。

今回のAVIAMAを機に、飯田市を中心とした日本や東アジアのネットワークができはじめたので、これをうまく活用しながら、教育的な価値というものを深めていく関係性をつかめればと思います。

いずれにしろ、飯田市の教育ビジョンである、「地育力による未来をひらく心豊かな人づくり」を実現する最も象徴的な取り組みだろうと、「地育力」300年以上も前から続くこの飯田の人形劇の文化を大切にしながら、「未来をひらく」地元とそして世界を視座に入れて未来をひらいていく、心豊かな人づくりのためには、大きな柱としてやっていく価値がある人形劇の取り組みだと思いました。ですので、教育委員会だけではなく市長部局、特に男女共同参画課のような海外との取り組みとも連動して深めていきたい、そんなところを思いました。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方はいかがでしょうか。伊藤委員。

(伊藤教育委員)

私は人形劇フェスタに関連して、文化会館、文化ホールについてお話をしたいと思います。

人形劇50周年はこれから10年後ということで、リニアが開通しています。また、文化会館のような建造物は、やはり50年以上のスパンで見する必要があります。ということで、私は50周年また100周年を見据えて、その辺りまで見通しができるかどうかわかりませんがお話をしたいと思います。

今年のフェスタは、皆さんもおっしゃったように、世界人形劇フェスティバル同時開催ということもあり、記録的な数字はすべて更新されました。ただ、飯田のまちの中に、もっとフェスタの広がりが欲しいと思います。人形劇に関わっている人ばかりでなく、人形劇に関わっていない人、あるいは飯田のまちそのものがフェスタともっと一体感を持つ、これから迎える50周年、さらに100周年に向かうのに、そのような姿が望ましいのではないかと思います。

そこで、文化会館についてですが、私はフェスタを意識した文化会館というものを提案したいと思います。提案内容は2つありますが、一つは文化会館の位置と場所、もう一つは、文化会館そのものの提案になります。

まず、場所の話ですけれども、大胆かもしれませんが、街中の飯田駅周辺に建設することを提案したいと思います。これは、過日、私が所属しているアイデア、そして、アルプスフォーラムの共同提案で市長に提案いたしました。それから、丘の上の5地区、橋南、橋北、東野、丸山、羽場のまちづくり委員会からも同じような要望が出ていると思います。

現在の高羽町の文化会館では、オープニングセレモニー、あるいはメインセレモニーを開催していましたが、それが終わると駐車場に停めてある自家用車で家に帰られてしまいます。どうしても文化会館周辺のつながりというか広がりがなく、点と点の動きになってしまうと思うのです。街中であれば、さまざまな機能があります。市役所も丘の上に残していただきましたし、病院、救急機関など、いろいろな機能があり、すべてが街中で行われれば人の流れができると思います。

また、まちの魅力はほかの人に出会ったり、新しい発見があったりすることだと思います。その最

たる例が11月3日にある「丘のまちフェスティバル」ですが、これはまさに街中ならではのイベントだと思います。また、飯田りんごも街中で行われているからこそ、飯田市民の一体感が生まれてくるのだと思っています。

衰退している丘の上の商店街を「今さら」という声はよく聞きます。

私は、ちょうど今、飯田の中心市街地のまちの顔が変わるときだと思っています。城下町であったものが明治維新のときに城と堀がなくなり商業のまちになる。そして、大火の後も高度成長下でさらに商業の中心地になった。そのときに、大型店の西友、ユニー、ピアゴと歴史を重ねてきて、あと5日ほどで閉店ということになってしまいました。そのような中で、商業の中心のまちから、文化のまちに変わるときだと思っています。文化のまちというと難しい表現になってしまいますが、文化というのは楽しく暮らしたり、幸せな生活を送ったり、そういったものに力をくれるものだと思います。ぜひこの中心市街地、この文化のまちの中に、文化ホールを設置してほしいということを提案します。

東京の例を出すと大きすぎますが、オリンピックもお台場で、あるいはスカイツリーも電波塔ですら山でもいいのですが、あえて浅草の密集地に建てる、そうすることで東京のエネルギーをずっと持続できるということになっていると思います。また、身近なところでは、松本市の信毎メディアガーデンが、ちょうど伊勢町から突き当たったところに、これも文化の集積と文化の発信ということで建てられました。こういった発想が飯田市にも求められているのだらうと思います。人口が増え、経済が成長しているときは確かに中心市街地から郊外へ分散していきました。しかし、今は人口減少社会ですので、中心に集積する 때가来たのではと考えます。

つづいて、フェスタを意識した文化ホールそのものの話になりますが、歩道を歩いているといつの間にか文化ホールの入り口に入っている、そんな空間が欲しいと思います。

そういったところには、カフェテラスのようなものがふさわしく、外壁はただ壁ではなく、ガラス張りで人形が飾られ、外から歩行者が足を止めて小さな人形劇が見られる、そんな仕掛けが欲しいと思います。よく「仏作って魂入れず」と言われますが、魂を入れていただく方は巨大人形劇「さんしょううお」を演出した沢則行さんのような方をお願いできればと思います。

2020年には東京オリンピックの後にパラリンピックがあり、これからはユニバーサルデザインとかバリアフリーの考え方が、さらに加速されると思います。車椅子でも行ける距離、駅から見える距離が最適だと思います。施設管理運営などはPFIのように民間を大いに活用していただきたいと思います。

最後になりますが、高羽町の現在の場所では、フェスタと飯田市民がまちを挙げて一体感を持てるようにはならないと思っています。リニア開通までに駅周辺に文化ホールを整備して、次の50周年、100周年に備えていただきたいと思います。そうすれば市長のおっしゃる小さな世界都市に向けた大きな一歩ではなく、二歩でも三歩でも進むのではないかと、名実ともにそうなるのではと思います。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方はいかがですか。発言に関連したご意見でも結構です。小林職務代理。

(小林職務代理)

今、伊藤委員から「文化のまちづくり」という話がありました。私もこの文化を大事にしたまちづくりができるということを最近感じています。

飯田市が長年取り組んできた人形劇のまち、オーケストラと友に音楽祭、やまびこマーチ、これらは教育委員会が管轄しているところではありますが、長い間、市長さんはじめ市長部局の皆さんが支えてくださっていたおかげで、今まで続いてきていることを実感しています。よく「本物は続く、続けば本物になる」という言葉がありますが、まさに飯田市はそれを運営していると思います。

学校現場にいた者として、40年ほど前に、「各学校に人形劇団を作ってほしい」ということを教育委員会から言われました。現場にいと「忙しい学校にまたそんなことを入れていくのか」と思ったことも事実であります。しかし、粘り強く働きかけたことによって、学校教育の中に人形劇、または人形劇を演じるということが定着してきました。

また、私は若いころに学級会活動の時間に、割り箸の先に人形の頭をつけて、4～5人のグループと自分たちの作った創作劇みたいなものを演じるという経験がありまして、おそらく市長さんや教育長さんの少年時代の話だと思えますが、そういった文化がやはり学校の中にあるということです。それが、今、総合的な学習の時間の中で、何年生になったら人形劇をやって、今度の人形劇フェスタに出演するというようなことが位置づいています。例えば、今年の千代小学校では、ふるさとの民話を人形劇にして演じるというように、ふるさと学習につなげてきていると感じます。

このように、40年間つなげてきてくれたということは、教育委員会の努力も当然ありますが、やはり市長中心にみんなでこれをつなげてきた、支えてきてくれた、そんな取り組みのおかげかと思えます。今まで教育委員、それぞれお話がありましたけれども、今後50年、100年先に向かって、今でも大事な財産になっていますが、ますます学校教育にとっても大事な財産になっていくだろうと確信をしております。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方いかがですか。

それでは、50周年に向けて皆様からご意見をいただきましたので、50周年に向けて、それぞれまた取組をしっかりと行っていくということを確認して、一つ目の項目は終わりとさせていただきます。

(2) 全国学習状況調査から見る飯田市の子どもたちの状況

(今村総合政策部長)

つづきまして、2つ目のテーマの「全国学習状況調査から見る飯田市の子どもたちの状況」に入らせていただきます。

最初に、教育委員会の事務局から、調査結果から見える飯田市の特徴についてご説明させていただきます。その後、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思しますのでよろしくお願いたします。

(高坂専門幹)

お配りいたしました資料を見ていただきたいと思えます。

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果からみえる飯田市の子どもたちの実態と保護者や地域の学校支援の状況をお伝えしたいと思います。なお、詳細につきましては、教育委員会の定例会及び定例記者会見で説明をしておりますので、ここでは概略のみをお話をしたいと思います。

資料の2ページをお開きください。「基本的な生活習慣と日常生活に関して」のところであります。質問1、質問2の結果から、飯田市の小中学生は、基本的な生活習慣が身に付いているといえます。

続きまして、質問3、質問4の結果から、「わが家の結いタイム」の啓発活動の視点から見ると、会話それから読書で特に成果が見られるということがわかります。続きまして、質問5、質問6の結果から、自己肯定感のところは2年連続で伸びております。また、質問6の自己有用感のところは、昨年に比べて大きく伸びており、飯田市の取り組む不登校対策にも有効であるということがわかります。

これらのことから、わが家の結いタイムで取り組んでいる家庭教育の充実の成果であると同時に、学校現場での指導の成果であると捉えております。

続いて、資料の5ページをご覧ください。コミュニティスクール（地育力による学校支援・学習支援）に関してのところであります。質問1と質問2の結果から、飯田市では、小中学校とも地域行事への参加の割合が全国と比べ大変高いということ、その一方、地域や社会をよくするために何をすべきかを考える割合は、全国平均とほぼ同水準であるということがわかります。また、質問3から質問6であります。飯田市ではコミュニティスクールの仕組みを生かした地域学校協働活動への参加率が非常に高く、その効果も高く評価されているということがわかります。

これらのことから、「よい学校がよい地域をつくる、よい地域がよい学校をつくる」という飯田コミュニティスクールの理念の実現を目指して、学校運営協議会や地域学校協働活動の取り組みが活発に行われているという報告をさせていただきます。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。調査結果の概要について説明させていただきました。これを踏まえまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。小林職務代理。

(小林職務代理)

今、高坂専門幹から報告がありましたように、学力学習状況調査の結果を見る限り、飯田市の子供たちは自己肯定感や、地域の一員として地域活動に参加しようという気持ちが高まってきており、飯田市が目指す「地育力による未来をひらく心豊かな人づくり」に確実につながってきていると感じております。

その中で、今年度2年目を迎えているコミュニティスクールについて、子供たちが地域における活動によってどのように成長していくかということをお話しさせていただきたいと思っております。

飯田市のコミュニティスクールの特徴はいくつもありますが、一つはグランドデザイン、各学校がこういった方針で年間教育活動をするということに対して、それを学校運営協議会で承認していただくという仕組みがあります。その中で、飯田市だけの取組だろうと思っておりますが、学校の活動方針・内容を言ったと同時に、地域は何をするか、家庭は何をするかということを経営的にまとめて、そのグランドデザインを承認するというような形をとっています。そして、それを年度末に学校運営協議会で評価しあって、来年度に向けて進めていくというような取組になっております。

昨年度あたりは、地域で取り組む目標、また家庭で取り組む目標がまだまだ漠然としていましたけれども、今年度は非常に具体的になってきて取り組みやすくなったと感じております。

さらに言えば、学校も地域も家庭も、あいさつに特化して取り組んでいく、そしてそれが成果を上げていくということもありますので、飯田市の子供たちの今後のことを考えたときに、学校運営協議会の中のそれぞれの目標がどのように設定されて、どのように評価されているか、そういったところを飯田市教育委員会としても大事に見守っていかねばいけないと思っておりますし、市長さんにもご助言いただければと思います。

もう1点ありますが、他のこととも絡みますので、後ほど発言させていただきたいと思います。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。三浦委員。

(三浦教育委員)

学力に関係しまして、ICT機器の設置、配置について感じたところをお話いたします。

学校訪問等で、設置の状況と活用の状況について見させていただきました。電子黒板とデジタル教科書が導入され、先生方も機器の使い方に慣れるところからで大変だったのではと思いますが、授業の準備を本当にしっかりされており、ICTを上手に活用した授業になっていると感じました。

先生方は、黒板の板書をきちんと組み入れながら、子供たちがノートを取るというところもきちんと指導されています。また、先生方の手作りの教材も生かしつつ、ICT機器が効果的に活用されているということを実感した学校訪問でした。子供たちにとって主体的な体感的な深い学びが重要ということがよく言われますが、まさに、そういった主体的な授業が展開され、子供たちがわくわくした顔で、上を向いて授業を受けている姿が印象的でした。

実は、私も当初は電子黒板やデジタル教科書といった教育のツールに関して、疑問に思う部分もありました。しかし、実際に授業を見させていただき、子供たちの感性も含めた深い学びができる、本当に効果的なツールだということを感じております。

ICT機器を設置していただきましたことに、本当に感謝をしております。ありがとうございます。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの方、いかがでしょうか。代田教育長。

(代田教育長)

ICTの設置につきましては、まず市長に御礼申し上げます。また、飯田下伊那でICT教育が進められており、明後日行われる飯伊の教育長部会研修で、14市町村の教育長が集まりICTの進捗状況を確認し合います。私もこの3年間を振り返り、改めて飯田下伊那の全体のICT教育が底上げされてきていることを思います。ハードが整い始めている中で、これからどのように活用していくかというところが腕の見せ所だと思いますので、飯田下伊那全体でしっかりと高め合っていきたいと思っています。

さて、コミュニティスクールの件ですけれども、6月18日に大阪北部地震があり、その後の学校運営協議会では、やはり大きなテーマとして地震対策、子供たちの安心・安全をどうするのかという議題が出ていました。ある小学校では、地図を見ながら地域の人たちが現在の状況を校長先生はじめ先生方に教える場面も見られ、また、ある中学校では、中学校と小学校の連携でどう通学路を見直すかという協議がされていました。

その中で、いよいよコミュニティスクールの位置づけとして、学校を支えるという面に加えて一緒に学校を治めていく、いわゆる協働の協に治める、協治して学校を一緒に作り上げていくというムードが少しずつできはじめていると思っています。もともと地域と学校との関わりが強いこの飯田の地域ですので、今後、この仕組みをさらによくすることが可能だろうと思うので、そういったことを意識しながらやっていきたいと思いました。

私が直接学校運営協議会に行くと、やはり「何かやるにもお金が少しもないのは何とかならないか」というご意見を多くいただきます。市から予算を配分するという時代ではないですが、飯田市が進めているふるさと納税の仕組みを生かしながら、それぞれの地区が独自の財源を確保できるような仕組みを作ることは考えられると思っています。それぞれの活動が活発化するような後押しというのは、教育委員会としても考えていきたいと思っています。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。小林職務代理どうぞ。

(小林職務代理)

学力・学習状況調査の中の学力の点であります。つい先日の信濃毎日新聞に特集記事があり、長野県全体とすれば数学や時事問題等で苦戦しているということが書かれていました。飯田市については分析をしている最中ですので、その部分に触れるつもりはありませんけれども、大事に見守ってきたいと考えております。

これに加えて、小学校の場合は来年、平成31年度から学習指導要領に5・6年生は英語科、3・4年生は外国語活動ということで導入されます。それに伴い、外国語、英語学習をどのようにしていくか、学力・学習状況調査も実施されますので、それも含めて大事に考えておく必要があると思います。

その中で、現在移行措置が始まっていますが、課題が浮き彫りになってきております。

一つは、5・6年生の場合、週2コマの英語の時間を入れなくてはいけません。入れる余裕がないのが現状です。その週2コマをどこへ組み込んでいくか、各学校でさまざまな工夫をして取り組んでいます。

二つ目に、この英語、外国語活動を誰が指導するのか、学級担任がするのか、配置しているALTが担うのか、もしくは、専科教員が指導するのか、3人が一緒にするのか、まだはっきりしていません。本来的には、学級担任が中心になって進めることがいいと思いますが、教員によって英語力の差が大きいです。大変苦勞するということが起こります。

そこで、飯田市としては、昨年から配置している教育支援指導主事、また、英語担当の教育支援指導主事が計画的に各学校を回って指導していただいています。この教育支援指導主事が学校現場では非常に頼りにされており、今後さらに学級担任等を中心に、英語の指導力を向上させる研修の支援をしていく必要があるだろうと思います。少なくとも、今後5年間ほどは、英語担当の教育支援指導主事を配置しながら研修等を進めるとともに、教員へ適切なアドバイスを送っていただけるように取組を進めていくことが必要ではないかと考えております。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方いかがですか。

今のご意見に関連したことでも、また別のご意見でもかまいませんが、いかがですか。

よろしいですか。

それでは、二つ目の項目はここまでとさせていただきます。

(3) 子どもたちの教育環境の整備について

(今村総合政策部長)

つづきまして、3つ目のテーマの「子どもたちの教育環境の整備について」ご発言をお願いいたします。小澤委員どうぞ。

(小澤教育委員)

7月から9月にかけて各地区でお祭りが行われております。私もいくつかのお祭りに参加させていただきましたが、どこの地区でも多くの小中学生が参加していました。また、私の地元の地区では高校生も参加していたり、県外の大学に進学している子供たちも夏休みということもあって帰省して参加していたり、一緒に御神輿を担ぐ姿が多く見られ、お祭りなどを通して地域を愛する子供たちが増えていることをうれしく感じました。

また、昨年度の総合教育会議で、市長さんと特別支援教育について意見を交わさせていただきました。先ほどお話のあったICTに関連しますけれども、支援を必要とする子供たちにも、そうでない子供たちにも、ICT教育は視覚的にも聴覚的にもとても入っていきやすいもので、非常に効果があると思っています。改めてICT教育の導入についてありがたく思っているところです。

さて、子どもたちの教育環境の整備についてということですが、飯田市では支援を必要とする子供たちの早期発見、早期支援のために市民と行政が協働して行う中核施設として、「こども家庭応援センター」を設置していきまして、就学前の子供たちとその親の支援をしてきております。

こども家庭応援センターの中には、「ゆいきっず広場」という子供と親が遊べる施設や、子育てに関する情報が得られる「すくすくサロン」、それから、専門職員を配置して、子育ての悩みを相談できる窓口なども設けております。また、特別支援教育の専門的知識を持つ相談員さんもいて、幼保小のスムーズな連携と円滑な就学相談を行っております。

そういった早期発見、早期支援を行っている成果もあり、飯田市は特別支援学級の在籍率が全国や長野県の平均と比較してとても高い状況で、さらにこれから増加する傾向にあります。それは、早期発見と早期支援の体制を整備しているのと同時に、地域においても教育や医療、福祉の連携が整っていること、さらに特別支援学級の良さが認識され、子供たちを手厚く支援しようとみんなが考えているからとも言えます。

一方で、問題点として、支援学級などに進学した子供たちが、子供の様子から通級指導教室を利用して学ぶことが適切と考えられても、近隣の通級指導教室を利用する子供がとても多く、十分な利用ができないことがあります。また、飯田市の特別支援学級の合計数が、現在のところ小学校54クラス、中学校26クラスあり、その学校から特別支援教育支援員を配置してほしいとの要望があっても、すべての要望に応えられていない状況にあります。

先生方も本当に苦勞しており、子供たちもつらい思いをしている状況にあると思いますので、ぜひそういった支援が受けられるような、支援員の先生を増やしていただけるように考えていただければと思っております。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。小林職務代理。

(小林職務代理)

今の小澤委員さんの発言に関連しますが、現在、教育長とともに校長先生の皆さんと面談をしています。

その中で、校長先生方から、支援の必要な子供に対して、その支援員の人たちが非常に手厚く丁寧に対応していただきありがたいというお話を聞きます。また、体制を継続されるとともに支援員の増員を要望する声が多く聞かれます。

具体的な例になってしまいますが、ある小学校では、1年生の2人の間でトラブルになり、暴れだしてしまい手がつけられなくなるということがあったという話を聞きました。また、他の学校では、4年生の3分の1程度が発達障害を疑われるということで、その支援が大変だという話も聞きました。

その中で、私が非常に危惧するのは、校長先生、教頭先生がその支援に回り、中には、毎日のように教頭先生と校長先生が授業に入る状況があるようです。それは大事なことでもありますが、校長先生、教頭先生はやはり全体を見ていただかなければならないので、その1学級だけに関わっている状況は、何か対策をしないといけないということになります。校長先生、教頭先生は、全体の学力、また生徒指導の面に力を入れる必要があるので、小澤委員さんが言われたように、支援員の配置を手厚くしていかないと学校自体が回らなくなってしまうということを危惧している状況です。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。今の発言に関連すること、もしくはほかの視点からでもかまいませんので、いかがでしょうか。三浦委員。

(三浦教育委員)

私も学校訪問をさせていただく中で、特別支援学級を見させていただき、教室から飛び出していく子供さんを支援員の方が追いかけていくという場面もありました。また、校長先生からのお話や実際の現場を見聞きしますと、本当に大変な状況があるということを感じています。

さて、子どもたちの教育環境の整備ということでは、学校訪問をする中で、学校が古くなってきていると感じます。ただ、子供たちも学校の先生も本当に掃除にしっかり取り組んでいただいております、学校が古くなってきてもきれいに使い続けていることをうれしく思うところです。

教育委員になりまして、去年は磐田市さんへ、今年は浜松市さんに、小中一貫校の視察をさせていただきました。磐田市さんのほうでは、30年先を見据えて、さまざまな計画の中で考えていくというお話を伺いました。浜松市さんのほうでも小中一貫校を拝見させていただくとともに、学校の老朽化や少子化という課題があり、小中一貫校に移行したという話もお聞きしました。

ただ、飯田市にも小中一貫校を取り入れてほしいということではなく、学校設備の老朽化やエアコンの設置等を考えていかなければならない中で、飯田市の子どもたちの教育について、設備の面からも長期的な視点を持って考える時期であることを感じているところです。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの方は、いかがでしょうか。小林職務代理。

(小林職務代理)

エアコンの設置について話をさせていただきたいと思います。冒頭の市長さんのごあいさつの中で、早急に対応していかなければという趣旨の話をいただきましたし、議会の一般質問でもそのような方

向で答弁をしていただいているということで、これ以上、強く申し上げるつもりはございませんけれども、現状を少しお話をさせていただきたいと思います。

私は古い人間でございますが、子供にはある程度の刺激を与えながら、心身ともにたくましく育てたほうが良いと考える方で、エアコンの設置については首をひねるところもありますが、さすがに今年の暑さは異常でございました。ある学校の校長先生からは、過去の歴史を紐解きながら今年の暑さが異常であるということをデータで示していただきました。ほかにも夏休みの延長等さまざまな提案をいただきますが、まずエアコンの設置等について何とか考えていただきたいという要望が出されております。

話は少し変わりますが、私が尊敬している昔の教育者で、国民教育の師匠である、森信三という方がいます。立腰教育などいろいろな点で注目を集めています。その著書の中で、「子供の様子を見てみると明日の天気わかる。雨天の前日は大気中の湿度が高まるので、子供たちはうっとうしくて我慢できず騒ぐのである」というようなことが記述されており、私自身もその実感を持っています。やはり子供たちというのは、非常に敏感ですので、雨が降るような時期になると、落ち着きがなくなるように思っていました。

ですので、今年のように30度以上の気温がこれだけ続くと、午後のあたりになるとぐったりして授業に集中できないという状況になっていると思います。

エアコンの設置については、費用対効果の問題や、小中学校28校ありますので、簡単な話ではないということは重々承知しております。ただ、保護者をはじめ、学校長や先生方から、ぜひ何とかしてほしいという要望も出ており、各学校でも熱中症計で計ってみますと、かなり高い数値が出ています。すぐに来年からということは、校長先生方も考えられてはいないと思いますけれども、見通しだけはしっかりと立てていただければありがたいと思います。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。伊藤委員。

(伊藤教育委員)

私からは、教育環境ということで掃除のことを話させていただきます。皆さんご存知だと思いますが、ワールドカップで日本の選手、あるいは観客の人たちが掃除をして帰ることが評価されました。日本人の古くからの美意識だと思いますけれど、それが新たに認知されたということであると思います。

市長がドイツにおられたときに、ドイツの学校の掃除状況はどうだったか、おそらく生徒がするのではなく、掃除会社の人があるのだと思います。日本の教育の中では、掃除もきちんと指導され、自分たちがきれいにした環境で学ぶということは改めて良いものだとして認識したと同時に、そういった精神的な成長の部分も大切だということを確認いたしました。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかの委員の方、いかがでしょうか。

そうしましたら、今まで1番から3番までそれぞれ意見をいただきましたので、全体を通しまして市長のほうからいくつかコメントをいただきまして、それを踏まえてさらに意見交換をしていただければと思いますのでよろしくをお願いします。

(4) 全体を通して意見交換

(牧野市長)

さまざまなご意見をいただき、ありがとうございました。

多岐にわたってお話をいただいておりますので、また後ほど、落ちている部分もご指摘いただきながらご意見をいただきたいと思います。また、部局長にも補足的に意見を出していただければと思います。

それでは、1番から戻りますが、私が皆さん方のお話を聞いていて思ったことを申し上げますと、やはり世界が身近に感じられるということが、この人形劇のまちづくりを通して、ある程度実証されてきているということを実感として持っています。

先ほど、三浦委員さんからもAVIAMAの総会を見ていただき、非常にご関心を持っていただいたというお話をいただきました。AVIAMAの総会を午前中だけでしたけれども、オープンにしたというのは初めての試みでした。ヨーロッパでの今までのやり方は完全にクローズで、後ろには誰もいなくて関係者だけ集まって会議をするという形でした。

そのような中で、前のシャルルヴィルの市長で、今のAVIAMAの会長であるルドゥーさんに、「飯田で総会をやる際には、できるところはオープンにして、市民の皆さん方にも見てもらい、AVIAMAへの理解を深めてもらってはどうか」という話を提案させていただき、了承をもらったという経過がありました。ただ、内輪の人事の話もあったので、そのようなところはクローズにさせていただきます。

余談になって恐縮ですが、先ほど副会長に選ばれたと言いましたけれど、あれは手挙げ方式で決めています。基本的には、事前に役員になりたいか、なりたくないか、また役員になりたいかどの役職をやりたいかということまで全部調査をしています。その結果、一つの役職に2人以上手が挙げた場合は、投票をします。それぞれの皆さんが1票を持っていて、欠席される場合は自分の1票を誰に渡すという委任状を取る形でやっています。

事前に選挙管理委員会から投票箱を借りておいて、そういった準備もしていました。実際、一つの役職で投票を行いました。会長のポストに2人以上立候補したらどうしようと思っていましたけれど、会長のポスト、それから私のポストは1人だけだったので、そこはすんなり決まりました。

このように、会議の進め方一つ見ても非常に国際的だという感じを受けます。基本的にはフランスのやり方、あるいはヨーロッパのやり方をベースにしていると思いますが、そういったことも、AVIAMAという会議を通して見ることができました。

いいだ人形劇センター理事長である高松和子さんから感想を聞く機会があり、「牧野市長が、あの会議においてどういう役割を担っているかよくわかった」と言われました。それは、それぞれの皆さんがバラバラなことを言い出したときに、いかにそれをまとめようとしているかということがよくわかったという意味だと思います。国際会議というのは、本当にそういった感じです。今村総合政策部長も一番初めの設立総会を経験されていますが、本当にみんな言いたいことを言い、誰もまとめることを考えていないという感じで、国際会議らしいといえば国際会議らしいですけど。そういったことも含めて、実際に来場して見てもらうというのは良い機会だったのではないかと思います。

また、語学という観点から私が非常に重要だと思うのは、基本的にやはり多言語だということです。ヨーロッパ中心の文化だからといえば、その通りですけども。聞いていただいた方はわかると思いますが、会議において英語は第2言語扱いでした。第1言語はフランス語です。フランス語で話され

たものを一回日本語に訳して、会場の皆さんに聞いてもらっています。こういったやり方をしたのも飯田が初めてです。というのは、ほかのところでは日本語に訳してくれませんので。私が日本語の通訳を連れて行って、私にだけ訳してもらおうというのがこれまでの会議でした。それを、会場に来た市民の皆さんに理解してもらえるように、日本語に全部訳してもらおうということをやりました。その後、それを英語に訳していました。そういう意味では、英語は第2言語ではなく、第3言語でした。フランス語がまず第1言語としてあって、第2言語は日本語、英語は第3言語ということです。それ以外の言語の方は、自分のところの通訳を連れてきて英語を訳してもらって理解するという形でした。

同時通訳で、多言語を訳せる人がいればいいのですが、残念ながら日本ではそういうことは難しい状況です。ヨーロッパでは、3カ国語、4カ国語話せる通訳は当たり前にありますけれども。英語を訳せる人はいますが、多言語で訳せる人はいたとしても、金額的に高くなってしまっているので難しいと思います。

つまり、先ほど英語教育の話もありましたけれども、シャルルヴィルのラヴィニオン市長と2人で視察をしている時などは、2人とも共通言語は英語になりますので、英語で話をしますが、そうかといって、英語だけの世界ですべてがちゃんと回るということではないということが、こういった総会を見ているとわかっていただけるのではと思うところです。

そういった中で、子供たちが多言語の世界に触れられるというのが、実は人形劇フェスタであると思います。人形劇フェスタにはヨーロッパを中心に世界から集まります。スペイン、あるいは、今年はイランからも来ていただきましたし、英語圏ではない多くの国から普通に人形劇の劇団が来ている。本当に多言語を身近に感じられるのが人形劇フェスタではないかと思います。

スポーツに例えると、世界的に見て、野球といえばアメリカしかないといった感じで、当然言語は英語という、昔の感覚ではそうだったと思いますが、サッカーは世界各国で人気があり、改めて、世界は多言語だということを肌で感じられたと思います。

まさに人形劇は多言語の世界であるということを感じられるのは本当に良いことで、小さな世界都市というのは、こういったことも踏まえて考えていけるといいのではと思います。

また、シャルルヴィル・メジエール市とどのような形で子供たちとの交流を進めていくかというのを、教育委員会の皆さんにもぜひ考えてほしいと思います。シャルルヴィル・メジエール市は基本的にはフランス語です。もちろん共通語である英語で交流するということはできます。それはできますが、やはり日本の子供たちがフランス語を学ぶべきだと思います。

私はラヴィニオン市長に聞きました。「シャルルヴィル・メジエール市はドイツとも友好都市提携を結んでいますが、どのような交流をされているか」と。やはり、子供たちの交流というものが非常に重要視されているということでした。その交流で大事なものは、やはりお互いの言語を学ぶということで、それが大きなウェイトを占めているとも言っていました。

ですので、フランスから来ていただく場合には、こちらは英語を話す必要はなく、日本語を学ぶつもりで来てほしいということだと思っています。逆にこちらから行く子供たちは、英語ではなくフランス語を学んでほしいということだと思っています。

今、シャルルヴィルとの子供たちの交流を考えたときに、何を学んでもらえばよいかということは、教育委員の皆様方にもぜひ考えていただければと思っています。教育長、このあたりについてはどう考えていますか。

(代田教育長)

少し戻りますが、国際会議で私が非常に印象的だったのは、本当に皆さんが自分の意見を主張するところです。あいだに牧野市長が入らなければ、妥協することなく自分の意見を主張し続ける、そのような雰囲気を感じました。その中で、自分の意見をきちんと自分の言語で話をしていくという姿勢、また、簡単には妥協しないという姿勢、そういったところは見習う部分があると思ったところです。

今の市長の話の中で、国際交流のときに大事だと思うことは、やはり言語そのものもそうですが、勇気を持って話すこと、要は間違ったら認めるけれど、自分が正しいと思ったら意見を戦わせていくこと、その感覚というのはすごく大事だと思っています。

市長の問いの回答にはなっていませんが、国際交流といったときに、単に人形劇を学ぶとか、言語を学ぶところを超えて、多言語の中で生きていく姿勢や態度みたいなものを育てていければと思ったところです。

(牧野市長)

それはその通りだと思いますが、言語を学ぶというその背景にあるのは、間違いなく向こうの文化を学ぶということだと思っています。

その地域の文化なり、その国の文化というものを学ぶときに、カンボジアのスタディツアーでもそうだと思いますが、やはり相手の国の言葉を自分の国の言葉と置き換えて、相手の国の言葉を理解しようとするのが大事だろうと思います。

その中で、主張すべきは主張するという姿勢や、相手の考え方も当然学んでいくということになるのではと思ったところです。

(三浦教育委員)

フランス語を学ぶということに関しては、シャルルヴィル・メジエール市と友好都市であるということで、英語表記だけでなく、フランス語表記もこの飯田の街並みにあってもいいのかなというようなことを感じています。子供さんだけでなく、市民みんながフランスの言葉に日常的に少しでも触れられるという、そういった環境も楽しいのではと思いました。

今、私の学校では、英語とドイツ語の授業が設定されていますが、私がこの人形の世界、人形劇フェスタをいろいろ見させていただいて、フランスと友好都市提携という関係があるのでフランス語の授業を設定してはどうかと同僚の教職員と一緒に話をしたところです。また、フランスから飯田に来てもらったときに、私の学校にフランス語のできる教員がいれば、コミュニケーションが取りづらいつきにもサポートできるのではと、いろいろと楽しく考えさせていただいたところです。

市民全体がフランス語に接するというものが日常的にあると、隔たりなくコミュニケーションを取れるのではと思いました。

(牧野市長)

今お話もいただいたところですが、やはり学校教育だけでは絶対進まない話で、社会教育も含めて考えていく必要があると思います。また、日仏の協会や国際交流協会をはじめ、いろいろな関係団体も含めて考えていく必要があると思います。

もう一点お話させていただきますが、飯田出身で高橋さんというフランス料理のシェフがいらっしやいまして、その方がシャルルヴィルで頑張っていらっしやいます。そういった方に、飯田の子供た

ちが話を聞いて、実際に、そのレストランで食事をさせてもらうというのもいいと思っています。そこでは日本語でもいいと思いますが、実際にどうしてフランスに行ったのか、どういうことに苦労されたかなど、直接質問をする中で、社会教育的な観点でお話をいただけるというようなこともあるのではと思います。

1番だけでもかなり話が広がる場所ですが、時間の関係もありますので、次のテーマにいきたいと思います。

2番の話ですが、ICTの関係については、教育長とはずっと話をしてきましたし、教育長になってもらう前から、どのようにこの地域でやっていったらいいかということを考えてきました。実際に千代でも取り組みを見させてもらいましたし、遠山郷のような地域で効果的に活用できるということもかなり進んできていると自分自身も感じているところです。実際に、先生方もうまく活用できるようにと考えていただいていると思いますが、先ほどの英語教育と同じで、このICTも得手不得手というのが先生方にもあるのではと思います。英語教育については、英語の教育指導を支援できる先生をという話がありましたけれども、ICTはどのような感じでしょうか。

(小林職務代理)

ICTについても得手不得手の方がいるのは確かです。これについて年齢は関係なく、好奇心というものなのか、物に対する感性みたいなものという感じがしています。

ただ、これもありがたいと思いますが、ICT担当の支援指導主事を入れていただいています。それから、教育支援指導主事、退職した校長先生方も研修の途上ですが、簡単なノウハウがわかるような研修を行いながら入っていただいています。先ほど教育委員の発言がありましたように、いわゆる電子黒板やタブレット等は使えるようになってきていると感じています。

今、始まったばかりですので、万能ではなく、これからいかに効果的に活用していくか、そこが今後の大きな課題だと思います。使うだけではなく、しっかりと活用できるように考えていきたいと思っています。

(牧野市長)

実際にどの程度の効果が出ているかというのは、何か目に見えるものはありますか。

(代田教育長)

今年度末にまた調査する予定でありますが、昨年度のいわゆるモデル校の調査で言うと、子供たちの授業がよりわかりやすくなったとか、興味が湧くようになったという結果が出ています。ただ、これはどの自治体の調査でもこの程度は出るという数値であります。先生方からもアンケートをとって、子供たちが注目して授業を聞くようになったというところまではと思っています。

次の段階として、これが学力とちゃんと結びついているのか、継続的なものになるのかということに関して、少なくともICTを使って意欲的な授業が先生と児童生徒とで相互に行われ始めたというところは、結果的な数値としては昨年度も出ています。これを最低限落とさないように今年度も取り組んでいきたいと思っています。

(牧野市長)

これから先は、先ほどの整備の話と関係してくると思います。

私ども市長部局からみると、教育委員会からいくつかの予算措置について要望が上がってくる中で、ICT教育についてはある程度まとまった予算が必要であるというのは、当然のことだと思っています。

そこに、今、学校のトイレの洋式化について、かなり強い形で話が出てきています。それは老朽化の話と絡んで、水回りの対策について考える中で、洋式化についても検討してきたところですが、それだけでは対応が難しいということで、とりあえず暫定措置みたいに簡易トイレを設置させていただいたという経過があります。そのような状況の中、クーラーの話も出てきたということです。

つまり、これから来年度予算を考えていく、あるいは、それに向けた準備をしていくという段階の中で、このような話に対して、どういったバランスで、どういった形でやっていくか。一斉に全部予算化できればそれに越したことはないですけれども、実際にはかなり難しい部分もあると思います。

では、一体何をどこまで優先してやるのか、あるいは学校ごとに実は優先順位が違ったりするのか、それとも、ある程度足並みをそろえる必要があるのか、こういったところが実は我々にとっては悩みどころだと思っています。10月以降、予算査定が段々とはじまっていく中で、そういったところのものさしといいますか、考え方をある程度共有しておかないと話がなかなかみ合わないということが起こってしまうと思いますが、そのあたりはいかがでしょうか。

もちろん、すべてやってほしいというのはわかりますが、現実的には、ある程度こういうふうに考えないと、というのがあれば。どうですか、教育長。

(代田教育長)

まずは空調設備の話で言うと、これをどういう順序でやっていくのかという側面と、ランニングコストの精査というのが、大きな柱になるだろうと思っています。

次に、人的配置のところでは言いますと、先ほど話がありましたように英語教育の支援員を増員させていただきたいと思っています。その一方で、一人ひとりのその人員配置が組織的に有効に機能しているかということを見ていくべきだろうと思っています。また、ICTや大規模改修の部分に関しては、やはり順序をどのようにするか、全体のバランスの中で考えていく必要はあるだろうと思っています。

(小林職務代理)

私どもも市長部局の皆さん方に、どういった順序で何をお願いしていったらいいかということは、非常に頭が痛いところであります。

エアコンのことに限って申し上げますと、先ほど私は古い考え方だというふうに申し上げましたが、今の飯田下伊那の状況を見ますと、あの涼しい平谷村や阿智村の浪合あたりにも手を付けだしています。極端な話をすると、これは子供たちの命、安全に関わるようなものだと思っています。

(牧野市長)

それは私どももそのような認識でいます。

(小林職務代理)

そうなってくると、エアコンのあたりは最優先に考えていただく必要があると思います。トイレの洋式化は命にかかわらないという部分では置いておいて、簡易で設置していただくもので様子を見て

みる。それからICTのところは、多少延びるという状況を考えないといけないかと思います。

特に安倍総理大臣もクーラーに対して予算措置をするようなことを言っています。もちろん市の負担も出てくると思うので、大変だと思いますけれども、今の置かれている状況からすると、そのあたりが優先課題になってくるかと思います。

(牧野市長)

今年の猛暑については、災害級と言われており、そういった状況に対しては災害対策みたいな観点からやらざるを得ないということで、我々もそういった認識を持っています。

ただ、そのときには、今お話いただいたように、例えばICTの関係について、全校に配備するのは少し先延ばしでもやむを得ない、あるいは命に関わる話ではないので洋式の便器は、当面暫定措置でもやむを得ないとか、ある程度共有されるような形になることが大事だと思うところです。

そこは市長部局に決めてもらえばいいということではなく、当然ながら教育現場から見たときに、順番を間違えないようにということもあると思います。今、小林職務代理から話があったような考え方でいいのではないかということであれば、そういったことをベースにして、教育委員会でおそらく予算編成を考えていると思います。なにしろ、小中学校 28 校の全教室にクーラーをつけるというのは、普通に考えたら1年間でまず無理ですよね。では、どこから手をつけるのか、どういった方式でやれば、よりコストを抑えた形にできるのかなど、そのような議論になるのではと思います。

(三浦教育次長)

現在、内部で検討しておりまして、これから総務部や総合政策部と協議をしていきます。

(牧野市長)

それから、もう一つ大きな話として、伊藤委員から文化行政の場の話をしていただきました。飯田駅周辺に文化ホールの建設をということで、この話については、飯田市のみならず飯田下伊那全体を巻き込んでいて、いわゆるコンベンション・アリーナの議論と非常に密接に関係する話なので、どのような形で考えていけばいいのかというところです。

駅周辺に文化ホールが備わっている事例というのは、ほかの地域にもあり、例えば茅野の音楽ホール、あるいは豊橋の芸術劇場PLATのようなところがあります。これらは、駅のすぐ隣にあって、茅野のほうは、どちらかというと音楽中心のホールという感じがしますし、豊橋のほうは、むしろ演劇を中心としたホールという形でやっている印象を受けています。

そういった事例もあるので、もちろん参考にしながら、駅周辺も今の状況を見ながらであれば、説得力が出てくる可能性があるかもしれません。

あとは、今、文化会館の建て替えについてはそれを前提にした場合、飯田市公民館と県文化センターを加えた3ホールのあり方というのが議論されています。文化会館は一応建て替えというものを前提に検討していきましょう、残りの2つのホールについては、1つに統合できるのかどうかということも含めて検討していきましょう、ということが議論されていて、そこに広域連合のコンベンション・アリーナの議論がもう一方で行われている状況です。

コンベンション・アリーナですが、ホール機能を含んでいますので、コンベンション・アリーナと同じようなものを飯田市が文化会館の機能として作るのは、役割としてどうかと思います。ですから、それをうまく役割分担させて、どのような機能をコンベンション・アリーナに持ってもらい、飯田市

としては、文化会館をこういった機能にして、残りの2つのホールをこういった機能にするということを今議論する必要があります。

皆さんに、これについて意見をお聞きすれば、おそらく3つか4つの考え方が出てくると思いますが、ここでは聞きません。ただ、そういった議論が実際に進んでいるという状況です。これは本当にさまざまな思惑が絡んでいるところもあり、今ここでなにか言えるという状況ではありません。

一番は、広域連合で議論されているコンベンション・アリーナの話、まさにリニアの将来を見据えた形で、この地域が小さな世界都市や学術研究都市を目指す中で、どのような機能を持てばいいかということです。当然県の役割も含めてどのように進めていくかということを考えている状況です。

そういった中で、伊藤委員のおっしゃったような話も、当然飯田市としては考えていく必要があると思います。ですから、伊藤委員のお話が間違っているとはまったく思っていないけれども、そのような状況の中で話が進んでいるので、今、それについて賛成や反対ということを行うのは難しいと思っています。

ただ、文化会館もだいぶ老朽化していること、それから、建て替えのときに現地での建て替えが難しいということは、共有しておいていただきたいと思います。現地建て替えがなかなか難しい理由は、市役所のように同じ敷地の中に玉突きで建て替えていくということは、今の文化会館の敷地では難しいという見方をしていること、また、今の建物を壊してそこに建設する場合には約2年間かかり、その間の文化会館の活動を止めるわけにいかないということです。そうすると、他の場所へ建設するしかないという状況です。その新たな場所が、駅周辺になるのか、どこになるのかということです。

以上、皆さん方から出た意見の中で、特に私のほうからコメントしたほうがいいと思う部分については話をさせていただきました。それを踏まえて何かあれば、ご意見をいただければと思います。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。

今、市長から全体を通してお話をいただきましたが、皆さんの方からご発言があればお願いいたします。

(小林職務代理)

文化会館のことについては、私も思いがありますが、ここではあえて言いません。ただ、現状を見たときに、図書館に駐車場がないなど、文化施設の部分が非常に気になっています。将来を見据える中で、すでにご検討いただいている部分もあると思いますが、なにか文化施設が1カ所に集約されることも考えていただきたいと思っています。

また、先ほど、多言語の話をしていただきました。飯田市の子供たちがみんなで多言語、多文化に接する機会というのは、なかなか難しい中で、人形劇フェスタの取組というのはまさに誰もが多言語、多文化に接することができる非常に大きいものだと感じております。その中で、今年のシャルルヴィル・メジェール市との関係で、提案していただいたところもありますが、中学生の時に現地の文化に触れるということは、この将来の子供たちの成長にとっては非常に大きいことだと思います。

私は海外との交流の体験はほとんどありませんが、ただ一度、イギリス、フランス、ドイツ、イタリアの4カ国の学校を見せていただいて、向こうの学校の先生たちと交流をしたことがありました。その時に、例えばドイツへ行くときはドイツの学校で、このことだけは子供と通じ合おうと、その国の言語を覚えて行っていました。

そういった感じで、ドイツやフランスやイタリアの先生たちとは交流ができました。なぜかという
と、お互いに片言の英語を使うからということです。交流ができなかったのはイギリスで、英語が早
くて全く理解できませんでした。

ぜひこのシャルルヴィル・メジエール市とも交流を進めて、多文化に触れる、多文化を学ぶという
経験を中学生くらいのときにできればということを願っております。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。ほかにご意見があればお願いいたします。

(牧野市長)

先ほどの話の追加になりますが、小澤委員から意見を出された、特別な支援を必要とする子供たち
への対応については、いわゆる発達支援の部分と、もう一つは外国人の子供たちへの支援という面が
あります。

今の私の立場は、文科省の応援団的な立場にあります。国の動きとして、義務教育の先生方の定数
問題というのがそのベースにあります。前も話したと思いますけれども、財務省と文科省の間で一番
議論がされているのが、少子化が続く中で、小中学校の義務教育の先生が将来どのようなかとい
うことです。今はだいぶベースができてきているので、極端な議論にならなくなっていますが、ほん
の3～4年前までは、かなり大きな問題になっていました。

要するに、小中学校の生徒さんたちが減っていくのであれば、それに合わせて学校の先生たちも減
らしていけばいいのでは、というのが財務省の議論です。学校の統廃合をどんどん進めるという、ま
さに机上の議論です。中山間地域と街中の学校を統廃合するような現実的にはあり得ないような話に
までなってしまいました。

ですから、私は、全国市長会の立場で、ほかの市長の皆さん方もそう言ってらっしゃいましたけれ
ども、そんな現実的でない議論は反対である、現場のニーズに即した形でそういうことは考えていく
べきだということで、文科省の味方についたということがありました。当時の状況は、土俵際まで追
い込まれたものを何とか中央まで戻して、対等な議論ができるようになったということです。もし、
土俵を割っていれば、今日の議論はもっと深刻だったと思います。先生方の定数管理がされてしまえ
ば、その分の国からの交付金しかこないという状況で、支援員なんてとても送れるわけはなく、どう
やってやればいいのかわからないという話になりかねなかったと思います。

その議論の翌年に、文科省と財務省の間で最大の焦点になっていたのが、発達支援の子供たちに対
する教員の定数の話と、外国人の子供たちに対する教員の定数の話です。これも財務省のほうは、か
なり極論の話を持ち出して、定数を減らす方向にしようとしていました。これについても、反対をし
て定数を守る方向で決着がついたということがありました。

つまり何を言いたいかといいますと、先ほどから出ている支援員の配置というような話は、市町村
としての考え方や工夫はできますが、あくまでもベースを作っているのは国なのです。全国の先生方
の定数をどのようにするかというのは国で考えているので、文科省が発達支援や外国人の子供たちに
対応する先生方の定数というものをまず保っておいていただかないと、その分を全部自治体が肩代
わりしていくという話になり、これは大変厳しい状況になると思います。ですから、そういったベース
の部分は今後も何としても守っていかなければいけないという立場で、私は文科省の応援につい
ているということは申し上げておきます。

その上で、先ほど申し上げた支援員をどのような形で飯田市としてアレンジしてやっていくかというのは、大いに教育委員会の皆さん方と一緒にあって議論ができればと思っています。ここまで、先生方のニーズを汲みながら、教育長、教育次長を中心に原案を考えていただいていると思います。私としては、全国のそういった立場にある人間として、中央の定数の議論を注視しながら、もう一方では、飯田市のアレンジの仕方というものを教育委員会の皆さんと考えていければという思いです。

(今村総合政策部長)

ありがとうございました。

まだ話題も尽きないかと思いますが、そろそろ時間がやっまいりましたので、これもちまして、意見交換を終了とさせていただきます。

ここで、小林職務代理が 10 月 8 日もちまして任期を終えられますので、ご発言をお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(小林職務代理)

私事で大変恐縮でございますけれども、一言ごあいさつ申し上げたいと思います。

飯田市の教育委員として 8 年間務めさせていただきましたけれども、浅学菲才の私が 8 年間こうして務めることができたのは、本当に市長さんはじめ理事者側の皆さん方のご協力のおかげと深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

私が教育委員を引き受けるときに、これだけはやろうと思ったことが 2 つございます。1 つは、小中連携一貫教育を何とか軌道に乗せること。もう 1 つは、当時、学校現場から入ってきている指導主事がいまませんでしたので、何とか 1 年でも置いていただいて、学校現場と教育委員会とのパイプを太くして、飯田市としての特色がある教育活動を展開したいと思っていました。

今振り返りますと十分できたかどうかと思うところですけども、結果として、指導主事を飯田市教育委員会に置くということが本当にできてありがたかったと思っております。現在、学校教育専門幹が 1 名、教育指導主事が 2 名というように配置できることになり、市長はじめ理事者の皆さん方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

実は、この専門幹と教育指導主事を置くということは、飯田市の教育にとって非常に大きな成果を上げていると最近特に思います。それは、この 8 年間で 3 名の方が学校現場に戻ってくれました。この 3 名の校長先生が立派な学校経営をしてくださっていると同時に、飯田市の教育ビジョンを実現するために先頭に立って頑張ってくださいしています。この方々はもちろん、もともと力のある方でしたけれども、この市教委の学校教育専門幹の仕事を通じて、今まで以上に視野を広げ、市長部局等とも人的ネットワークを広げていただきました。そのような形でキャリアアップして大きく成長していただいたと思っております。

そういった意味でも、現在も高坂専門幹と 2 名の指導主事がいるわけでございますが、きっと今後の飯田市の教育を推進していく人物として育てていくのではないかと期待しております。

公民館の主事が、各地区で経験を積んで市長部局に入って活躍するという素晴らしい仕組みがありますが、それと同じように、またそれ以上に、この専門幹を置いていただく、指導主事を置いていただくということは、飯田市の教育全体にとっても非常に大きいことだと思っております。ぜひ継続、また拡充のほうをお願いしたいと思います。

最後になりますけれども、このような立場で、学校訪問や校長面談をさせていただき限り、飯田市のそれぞれの学校が非常に安定しており、確実に子供たちが育っていているということについて、非常にありがたく思うと同時に、安心して退任できることをうれしく思っております。

本当に長い間、支えていただいた皆様方に感謝申し上げます、あいさついたします。本当に長い間ありがとうございました。

4. 閉会

(牧野市長)

まず小林職務代理におかれましては、改めてお世話になったことを、市長部局を代表して御礼申し上げます。本当にありがとうございました。8年間という本当に長きにわたりまして、本市の教育行政を引っ張っていただきましてありがたく思うところであります。

やはり市長部局として思うことは、学校現場の考え方、ニーズというのがどのあたりにあるのかということに非常に興味を持っているところであり、そういったことを的確に把握するという役割を小林職務代理に果たしていただいたと改めて思うところであり、敬意と感謝を申し上げます。

今後も山本でまたご活躍いただいて、山本の地域づくりにも積極的に関わっていただけるものご期待申し上げているところであります。ぜひ今後もよろしく願い申し上げます。本当にありがとうございました。

また、それぞれの教育委員の皆様方におかれましても、本日は大変多岐にわたりまして、それぞれの思いにつきましてご意見を賜り、また、私の思いも共有していただいたことに対し御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

現在進行形の課題も多々ある中で、空調の整備にしろ、文化ホールの機能にしろ、一朝一夕に結論が出るような話ではないところですが、そういったものだからこそ、こうした場を設けていただいて、教育委員の皆さん方と市長部局で意見を交換しながら、意識を共有させていただくことができるということは、本当にありがたいことだということを改めて実感したところであります。

この総合教育会議は年に2回ほど計画されておりますが、例えばお昼を食べながらでもいいので、もう少し気楽な形で懇談をさせていただき、そのような場もどこかで設けさせていただければということも併せて考えさせていただきたいと思っておりますので、またよろしく願い申し上げます。

教育委員の皆さん方におかれましては、これからもそれぞれの立場から、教育振興にご尽力いただければと思うところであります。本日は誠にありがとうございました。

(今村総合政策部長)

それでは、限られた時間でございましたが、多岐にわたり意見交換をいただきましてありがとうございました。

以上をもちまして、第1回総合教育会議を閉会させていただきます。

お疲れ様でした。